

# あむあむ 地球温暖化

## もともとは きょうと京都になかった どく毒きのこが！



京都市左京区鴨川近辺にて発生した  
オオシロカラカサタケ。  
(2002年10月 小田貴志氏撮影)

### くわしい説明 ～大人の方向け～

オオシロカラカサタケは、熱帯～亜熱帯地域に分布するきのこで、かつて日本では一部の地域でしか確認されていませんでした。しかし、近畿地方での調査の結果、1980年に大阪の一方所で確認された後、大阪湾岸を中心に毎年その発生域が北上していたことが明らかとなりました（京都府では80年代後半に発生が確認）。何らかの経路で侵入したこのきのこが冬の最低温度の上昇によって越冬が可能となり、定着したのではないかと考えられます。現在では、群馬県や石川県でも確認されており、今後さらに北上する可能性があります。

なお、オオシロカラカサタケは、嘔吐、腹痛、下痢などを引き起こす毒きのことしても知られます。生息域のが広がることで、中毒事故が多くなる可能性もあります。

2007年には、最近の温暖化などの気候変動の影響によって、南イングランドにおけるきのこの発生回数や発生日数がこの50年間で大きく変化しているという研究報告がなされました。きのこは、落ち葉や枯木などの分解者として生態系の物質循環に欠かせない働きをしたり、生きた樹木の根と共生し、互いの成長を支え合ったりしています。きのこの生息場所や活動が変化することは、生態系全体に大きな影響を与える可能性があるのです。

(小田環境教育事務所 小田貴志氏)